

平成 29 年 8 月 23 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 29 年 8 月 23 日 (水曜日)

午後 3 時 10 分から午後 4 時 32 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

教育長 高橋 謙 委 員 鷲尾 達雄 委 員 羽賀 友信
委 員 青柳 由美子 委 員 大久保 真紀

4 職務のため出席した者

教育部長	金澤 俊道	子ども未来部長	波多 文子
教育総務課長	曾根 徹	教育施設課長	中村 仁
学務課長	佐藤 正高	学校教育課長	竹内 正浩
子ども家庭課長補佐	神保 亜由美	保育課長	大野 宏
青少年育成課長	伊津 芳彦	中央図書館長	山田 あゆみ
科学博物館長	小熊 博史	スポーツ振興課長	川上 英樹
学校教育課主幹兼管理指導主事	高橋 和久	学校教育課主幹兼管理指導主事	柳沢 学
学校教育課主幹兼管理指導主事	神林 俊之	学校教育課指導主事	古川 真哉

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐 星野 麻美 教育総務課庶務係長 佐藤 裕
教育総務課庶務係 金子 あゆみ

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 32 号	平成 28 年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について
3	第 33 号	条例改正の申出について（長岡市立学校使用条例の一部改正）
4	第 34 号	補正予算の要求について
5	第 35 号	長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

7 会議の経過

（高橋教育長） これより教育委員会 8 月定例会を開会する。

◇日程第 1 会議録署名委員について

（高橋教育長） 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第 2 項の規定により、鷲尾委員及び大久保委員を指名する。

◇日程第 2 議案第 32 号 平成 28 年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について

（高橋教育長） 日程第 2 議案第 32 号 平成 28 年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について を議題とする。事務局の説明を求める。

（金澤教育部長） 7 月 20 日に事務評価委員会を開催し、事務局からの説明及び質疑応答を行い、8 月 17 日に事務評価委員会から点検及び評価結果の提出があった。全体を通しての意見としては、「きめ細やかな取組が着実に進んでいる」、「熱中！感動！夢づくり教育や子育ての駅など、教育や子育てに向けた様々な施策が実施され、「米百俵のまち」「子育てしやすいまち」が具現化されてきている」など高い評

価を得た。また、これまでの取組を整理し、新たな視点を加えて「新長岡市教育振興基本計画」を策定した点も高い評価であった。一方で、「現場の声を大事にして今後も届けたい相手により良い支援が届いているか、定期的にニーズを調査しながら継続した取組を進めてほしい」、「子どもたちもそれを取り巻く環境も変化していくため新しい課題が生じるが、感度を高く保ち迅速かつ的確に対応できるフットワークの良さを保ち続けてほしい」、「働き方改革」は教育の分野でも最重要課題であることから国や県の施策による部分も大きい、市としての取組も進めてほしい」との要望があった。教育委員会定例会・臨時会の開催及び審議状況等についての意見と、教育委員会における事務の点検・評価についての意見は報告書のとおりであるが、教育委員会定例会・臨時会の開催及び審議状況について、傍聴人が少なかったとの意見があり、今後はその点の改善を図っていきたいと考える。

(高橋教育長) 質疑・意見はあるか。

(高橋教育長) この報告書は、8月17日に結城委員長より提出があった。その際、子どもたちへの対応も含めて全体としてしっかり運営されており、今後も継続してほしい、世の中の変化は非常に速いため、臨機応変な対応・意識・心がけをお願いしたい、との話があった。委員長とは、将来を見据えた義務教育の在り方についても話し合った。

(羽賀委員) 報告書のなかの「NPプログラム講座」のNPとは、ノーバディーズパーフェクトの略だと思うが、その点を記述に入れたほうがよいのではないか。

(高橋教育長) 他にこのような説明がないとわからない項目がないか精査し、あれば修正してもらいたい。

(高橋教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(金澤教育部長) ただいま決定した評価報告書は9月の議会に提出し報告する。

改正)

(高橋教育長) 日程第3 議案第33号 条例改正の申出について(長岡市立学校使用条例の一部改正) を議題とする。事務局の説明を求める。

(中村教育施設課長) 9月15日に現在建設中の高等総合支援学校屋内運動場が完成し、また来年1月に屋外運動場が完成することに伴う所要の改正である。現在の学校使用条例は、総合支援学校及び高等総合支援学校が使用の対象になっていないため、第2条の条文に特別支援学校を加え、校舎を含む施設を学校使用の対象にするものである。また、室内及び屋外運動場の使用料を定めるため、別表の2に長岡市立高等総合支援学校の項を加える。使用料は他の学校と同じく、屋内運動場はアリーナの面積に午前・午後は1㎡2円、夜間は2円50銭をかけて算出している。屋外運動場は面積に10銭をかけて算出しており、いずれも100円未満の端数は切り捨てとしている。条例の施行期日は10月1日からであるが、屋外運動場の使用については、完成が来年1月であることと冬期間は降雪により使用できないことから、平成30年4月1日からとし、それまでの期間は別表2の屋外運動場の使用料の欄は空欄として扱うことにする。使用の申込みについては施行日前から受け、その他の取扱いは他の学校と同様である。

(高橋教育長) 質疑・意見はあるか。

(高橋教育長) 運動場使用料を定める単価の根拠はなにか。

(中村教育施設課長) 平成17年の条例制定時に、各学校の利用状況や、夜間の光熱水費、建物評価額の平均より算出した。

(高橋教育長) 実費弁償から単価を算出し、それに面積を掛けているということでよいか。

(中村教育施設課長) そうである。

(高橋教育長) 他に、質疑・意見はあるか。

(高橋教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

◇日程第4 議案第34号 補正予算の要求について

(高橋教育長) 日程第3 議案第34号 補正予算の要求について を議題とする。

これについては公表前であるので、非公開が適当ではないかと思うが、他の委員の方々はいかがか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) では、非公開とし、傍聴人の退席を願う。

会議規則第20条第2項の規定により記録中止

(高橋教育長) 非公開はここまでとし、退席者の再入室を求める。

◇日程第5 議案第35号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について

(高橋教育長) 日程第5 議案第35号 長岡市教育委員会表彰被表彰者の決定について を議題とする。事務局の説明を求める。

(曾根教育総務課長) このたびの長岡市教育委員会表彰の被表彰者は7名であり、それぞれ要件を満たしている。表彰式は、11月7日午後からさいわいプラザで予定している。

(高橋教育長) 質疑・意見はあるか。

(高橋教育長) 定例会前の表彰ヒアリングを踏まえ、各表彰候補者について、表彰者として適しているか否かを決定する。対象者は、条項第6号の4名、第7号の1名、第9号の2名である。全員、「適」として決定したいと思うが、いかがか。

[全員了承]

(高橋教育長) 候補者全員、「適」と決定する。

(高橋教育長) 以上をもって、本日の議案の審議については終了した。

(高橋教育長) 次に、協議報告事項に移る。最初に、平成29年度全国学力・学習状況調査結果概況について であるが、この内容については公表前であるので、非公開が適当ではないかと思うが、他の委員の方々はいかがか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) では、非公開とし、傍聴人の退席を願う。

会議規則第 20 条第 2 項の規定により記録中止

(高橋教育長) 非公開はここまでとし、退席者の再入室を求める。

(高橋教育長) 次に、第 1 回第二次長岡市子ども読書活動推進計画策定委員会報告について事務局の説明を求める。

(山田中央図書館長) 平成 25 年度からの 5 年間を時期とした第一次長岡市子ども読書活動推進計画が今年度で終了する。そこで、来年度からの 5 年間を期間とした第二次計画を策定するための委員会を今年 4 月に立ち上げ、7 月 27 日に第 1 回目の委員会を開催した。その会議の報告である。出席者は、公募の 2 人を含む委員 5 名、オブザーバー 5 名、事務局 7 人であった。読書推進計画は、生まれてから 18 歳までの世代別推進計画を策定しているため、会議運営に先立ち、関係各課の担当者からなるワーキンググループを設置している。会議内容は、第一次計画の実績や効果を検証した結果の報告と、その検証結果の反省を生かすための第二次計画案についてである。検証するにあたって、第一次計画実施前の平成 23 年度と、実施後の平成 28 年度に、ほぼ同じ施設を対象にほぼ同じ内容でアンケートを行った。その結果、本を読むかなどの質問に対しておおむね数値が上がっており、計画の効果が出てきていると考えられる。委員からの主な質問として、赤ちゃん相談でのブックスタートに参加する保護者は何パーセントくらいか、という質問には、ほとんどの方が参加しておりボランティアや母子保健推進員の協力により事業は順調に推進している、と回答した。また、学校図書館の本が古いと感じた、との意見には、学校図書館図書標準の数値を目標に整備してきており蔵書数は達成しているが、今後は児童生徒に対して、より正しく新しい情報を提供することを目的に、古い本を新しい本に買い替えることを検討している、と回答した。また学校現場から、以前から推進している朝の読書時間において一定の効果がみられていることや、蔵書整理などブックランドサポーターの協力や図書館での調べ学習などの支援体制に感謝している、との意見が出た。今後の課題は、メディアコントロールであり、保護者が子どもに絵本の読み聞かせをせず、スマホを渡すなど文字活字との関わりが少

なくなっている点が懸念されており、第二次計画の中でもその点を踏まえて検討を進めているところである。今後ワーキンググループにおいて検討を重ね、秋にパブリックコメントをし、来年3月までに第二次推進計画を策定したいと考える。

(高橋教育長) 質疑・意見はないか。

(青柳委員) 市が推進している朝の読書時間とあるが、市内全学校にて行われているのか。

(山田中央図書館長) おおむねしていると認識している。時間は、一番集中しやすい朝学活前の15分間である。教職員経験のある公募委員から、朝読書を始める前とあとでは効果が全く違った、との意見や、図書館協議会の学校部会の中でも、朝読書のおかげでクラスに落ち着きと集中力が出てきた、という意見があったと聞いている。

(鷲尾委員) 検証を基に案を作成するのは、これから行っていくのか。報告書の内容で、委員に検証結果の説明があったと受け取れるが、朝読書に取り組んでいる具体的な検証材料があった方が良いのではないか。

(山田中央図書館長) 検証においては資料を作成し、策定委員会に提出し説明している。朝読書の取組など、機会を見つけて報告させていただきたい。

(金澤教育部長) 第二次計画策定までの流れは、まずワーキンググループで各課の取組を検証したものをひとつにまとめ、策定委員会で説明し意見を求める。その後、出た意見と検証結果を踏まえた計画案を2月の策定委員会にて提示し意見を求め、最終的に形にする。策定委員会で検証を進めるということではない。

(高橋教育長) 他に質疑・意見はないか。

(羽賀委員) 会議で出た、保護者が忙しいためメディアに育児を頼り、家庭での絵本の読み聞かせなどの関わりが少なくなっている、という意見は大変重要であると考えますが、子どもへの弊害を踏まえるなどし、第二次計画に反映されていくのか。

(山田中央図書館長) 乳幼児期における読書活動推進のなかに盛り込んでいきたいと考えている。赤ちゃん相談の際に、メディアコントロールの影響や弊害を具体的に示したうえで、読み聞かせなどの読書活動を推進できるように、働きかけていきたい。

(金澤教育部長) SNSセーフティープログラムのなかに、こちらを盛り込んだり、

こんにちは赤ちゃんで訪問した際に、メディアコントロールの資料を加えて説明することもできると考える。

(波多子ども未来部長) ブックスタートで赤ちゃんに提供している本の中に、スマホに育児をさせないで、という本もあり、今後も拡充していきたい。

(羽賀委員) 子ども自身が、スマホではなく私を見て、と声をあげていることに危機感を感じており、そこを強調していただきたい。

(高橋教育長) 推進計画は、子どもの読書活動の計画のため、どこまでの範囲を中央図書館が所管するのか難しい問題である。教育委員会全体に関係するため、図書という切り口で細かな計画を盛り込むのは難しい。全体計画を策定し、担当課が実態に即して進めていると思うが、担当を明確にしてほしい。

(金澤教育部長) 第一次計画は、各課が読書に関する既存の取組をまとめたものを基に策定した。今後、検証を進めるなかで連携を深めていきたいと考える。あくまで中央図書館はまとめ役であり、ワーキンググループにて検証を行い、各課で検討、拡充していく。

(高橋教育長) 読書という切り口において、連携を含めて実効性のあるものを作ってもらいたい。他の課の取組も理解しつつ、自身の課にも生かせるような計画になるよう、お願いしたい。

(高橋教育長) 次に、幼保小連携研修会の実施報告について事務局の説明を求める。

(大野保育課長) 幼保小の連携・接続について、基本的な留意点や他市の事例等を学び、情報や課題を共有する場を設け小学校への円滑な進学へ繋げるため、研修会を行った。受講者は、長岡市内すべての幼稚園、保育園、認定こども園の保育士及び小学校教諭である。研修内容は、中越教育事務所の樋熊先生より、幼保小連携における留意点と具体的な実践方法について講義をしていただき、その後、幼保小の連携、接続について、今後実施できることをテーマに、グループ協議・意見交換会を行った。春と夏にそれぞれ連絡会や授業・保育参観を複数職員が行えば、年度当初に向けてスムーズに保育・教育を組み立てられるのではないかと、また、早期発見・早期対応が重要であるため年間計画を作成し、自然に連携できる体制作りをしていきたい、などの意見が出た。研修を行ったことにより、幼保小のそれぞれの課題や

先生方の子どもへの想いを共有でき、お互いに分かり合うための最初の一步を踏み出すことができたと感じている。今後どのように継続していくか、行政としてどういふ風な幼保小連携ができるのか考えることが課題と考える。保育所保育指針が改定され、平成 30 年度から実施されるが、そのなかでも幼保小連携が配慮事項から努力事項になり、より強化されている。小学校の学習指導要領にも幼保小連携が反映されており、学校側と協力してどのように連携を進めていくか考えていきたい。

(高橋教育長) 質疑・意見はないか。

(青柳委員) 小中連携はうまくいっていると感じているが、幼保小連携はこれからだと感じている。特に、先ほどの評価報告書の中にも、幼稚園、保育園と小学校教育の違いで困惑する保護者がたくさんいる、とあった。この部分を詰めていくことによって保護者の不安が解消されると思うので、ぜひお願いしたい。

(高橋教育長) 他に、質疑・意見はないか。

(高橋教育長) この研修会は今までなかったものなのか。

(大野保育課長) 幼保小連携の研修会は昨年度より行っている。ただ、昨年度は大学教授の講義を聴くのみであったが、今年度からは現場の先生同士で話し合いの機会を設けた。以前より保育士から小学校の先生と情報交換を行いたい、と意見があり、今回の取り組みがとても有意義であった、との感想があった。今後も連携を進めていきたい。

(高橋教育長) 講義も大事だが、グループワークにおいて、自分の学校に入学予定の園児のいる保育士と話す機会があることは、先生同士が顔見知りになり、何かあった時に連携をとりやすい。その中で元先生と現先生が抱える悩みや相談、または情報交換で情報を共有できることが重要であり、今後も、ぜひ工夫して進めてほしい。

(鷲尾委員) 幼稚園、保育園から小学校への連携が必要だ、という考えや危機感が高まっている背景にはどのようなことがあるか。

(金澤教育部長) 小1プログラムという言葉があり、児童が授業中に離席するなど、小学校生活の基本的な部分が欠如してきている、という状態である。

(波多子ども未来部長) 幼稚園・保育園生活において、自由に遊んでいた子どもが、小学校生活では時間で区切られて、椅子にきちんと座っていなければいけない。新

入学生にとってはとても大きなことである。

(鷲尾委員) 規律のハードルが高くなり、それに順応できないということなのか。

(金澤教育部長) 授業時間と休み時間に区切られており、その点にギャップや違和感を感じているのではないか。

(大久保委員) メディアの問題においても連携は有効だと感じている。子どもは小学校入学より前からメディアに深く関わっており、SNSプログラムを使い活動すると良いと考える。

(高橋教育長) 他に、質疑・意見はないか。

(高橋教育長) 次に、全国大会等出場選手激励会の開催について事務局の説明を求める。

(川上スポーツ振興課長) 7月10日及び8月10日に、アオーレ長岡ナカドマにおいて、夏の全国大会等に出場する対象選手全323人のうち204人が出席し、激励会を開催した。小・中学生は対象49人のうち48人が出席した。この選手たちは、教育委員会より助成金の交付を受け、活躍を支援いただいている。市内小学校5年の児童が全日本少年少女空手道選手権女子形小学5年生の部で優勝するなど、多数活躍した。

(高橋教育長) 質疑・意見はないか。

(高橋教育長) 300人を超える子どもが全国大会に出場することは、もの凄いこと、という印象である。出場人数は少しずつ増えている状況なのか、それとも、毎年300人ほどなのか。

(川上スポーツ振興課長) 傾向としては増えてきている。

(高橋教育長) 児童生徒数が減少している中で、素晴らしい。同じクラスに全国大会に出場している児童生徒がいるという環境は、身近に全国を感じられ、自分も、という意欲向上につながり、スポーツに限らず効果が高いと考える。今後もぜひ頑張ってもらいたい。

(鷲尾委員) 帝京高校のバスケットボール部と空手部には、素晴らしい指導者がいるのか。

(川上スポーツ振興課長) 数年前に指導者が変わり、結果が出てきている。

(鷲尾委員) 市外や県外から、その指導者からの教を乞いたいと入学してくるこ

とはあるのか。

(川上スポーツ振興課長) バスケットボール部に関しては、県内の選手で戦いたいという監督の意向があり、県外の試合の際は「長岡プライド」をスローガンにしている。

(高橋教育長) 他に質疑・意見はないか。

(高橋教育長) 次に、第56回1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭 開催報告について 事務局の説明を求める。

(川上スポーツ振興課長) 7月30日に市民防災公園において開催した。4,500人を超える方の参加があり、朝6時半より全国生中継され、多くの参加者により長岡から全国へ元気を発信した。小学校へのチラシ配布や、小中学校PTA連合会、子ども会連絡協議会などから参加のご協力をいただき、大成功をおさめることができた。

(高橋教育長) 質疑・意見はないか。

(高橋教育長) 思ったより大人数の参加で、手足を伸ばすと隣りの人とぶつかる程の方が集まり、子どもと一緒に早起きをして参加している人が目立った。全国を巡る体操祭であるが、県内では長岡が初めての開催である。大勢の人が集まれる場所の選定が難しいなか、良い場所があり、日頃からアオーレでラジオ体操を行っているなど環境が整っているということで選ばれた。

(青柳委員) 交通障害はなかったのだろうか。

(川上スポーツ振興課長) 基本的にパークアンドライドをお願いしており、特に大きな混乱はなかった。

(高橋教育長) 次に、附属機関等会議報告について 事務局の説明を求める。

(神保子ども家庭課長補佐) 7月24日にながおか市民防災センターぐんぐんにおいて、第1回長岡市子ども・子育て会議を行った。今年度も新潟県立大学の小池准教授にアドバイザーをお願いした。会議内容は、平成29年度長岡市子ども・子育て会議、平成29年度ワーキング部会、子育て世代包括支援センターについての3項目とアドバイザーからのまとめであった。今年度もより専門的について審議するために、会議の下に部会を設けている。今年3月の定例会での説明では2つの部会であったが、更に調整をし、民営化した保育園のフォローアップ等の検討を行う部

会を増やし、3つの部会体制で検討を進めていく。委員から、東京フィルハーモニーの一流の演奏を家庭環境に関わらず平等に聞ける機会を設けるなど、義務教育だからこそできる本物を体験する機会や学習支援をすることで、貧困の連鎖を断ち切るよう検討していきたい、などの意見が出た。アドバイザーからも、貧困について学んでほしい、との意見があり、8月28日に小池アドバイザーを講師に迎えて、第1回子どもの貧困対策について検討するワーキング部会を開催する。

(高橋教育長) 質疑・意見はないか。

(高橋教育長) 以上で、協議報告事項を終える。

(高橋教育長) 次に、催し案内について補足説明のある者は挙手願う。

(竹内学校教育課長) 第43回長岡地域児童生徒科学研究発表会を、9月28日と29日に行う。28日は小学生部門、29日は中学生部門の発表であり、会場はさいわいプラザ、教育センター、四郎丸小学校である。また、9月9日に南部体育館において、小学生ロボコン大会を開催する。9月25日から27日の期間に栃尾東小、富曾亀小、大島中、新町小、中島小学校において、ふれ愛芸術体験事業としてバリトン歌手・豊島雄一さんによる歌唱コンサートを開催する。ぜひご覧いただきたい。

(山田中央図書館長) 全3回の日程で、読み聞かせボランティア養成講座を開催する。1回目のみ未経験者も受講することができる。9月12日から10月29日に、長岡市栃尾美術館において高橋まゆみ人形展を開催する。こちらは大変人気のある展覧会である。9月16日の10時から開場式を行う。また、8月23日より全6回の日程で、古文書にみる長岡のすがたの講座をおこなう。

(高橋教育長) 読み聞かせボランティア養成講座の申込は、例年、定員に対してどれほどの申込みがあるのか。

(山田中央図書館長) 定員の申込み数である。

(高橋教育長) 以前から行っている講座であるので、かなり読み聞かせをできる人が育っていると考えてよいか。

(山田中央図書館長) そのように考えてよい。そのため、今回はスキルアップをメインに講座を行う。

(高橋教育長) 養成講座を受講された方は、学校や図書館にて、読み聞かせボランティアをしているのか。

(山田中央図書館長) そうである。

(小熊科学博物館長) 9月12日から10月29日まで、郷土史料館において、特別展「長岡藩士土屋家資料展」を開催する。昨年度、長岡藩士土屋氏の子孫から100点ほどの古文書等を寄贈していただいた。その資料から長岡藩士が嗜んだ能学や武術など、豊かな武家文化の魅力を初公開する。また、9月23日から10月15日まで、さいわいプラザ科学博物館企画展示室において、第7回「長岡藩主牧野家の至宝展」を開催する。長岡藩主の書画や牧野家に伝来した著名人物の書画を初公開する。

(高橋教育長) 長岡藩における土屋家は、どのような役職であったのか。

(小熊科学博物館長) 詳しくはわからない。芸術に関連する役職にいた藩士ではないかと思う。研究報告は後日配付する。歴史担当の職員が資料の考察をしている。

(高橋教育長) 展示期間終了後、反響があれば、長岡開府400年の際などに一部を展示するのも、見ごたえがあり良いかもしれない。

(小熊科学博物館長) 様子を見ながら展開していきたい。

(神保子ども家庭課長補佐) 9月29日にながおか市民防災センターにおいて、思春期向け次代の親育成事業を行う。親子とのふれあい交流を通じて、命の大切さを学び自己肯定感や自尊心を育む講座である。小国中学校2年生の45人が対象で、親子10組程度を募集中である。

(伊津青少年育成課長) 9月24日に市民防災公園において、第18回ながおかポニーカーニバルを行う。昨年は2,800人の参加があり、今年も盛大に行いたいと考えている。また、9月10日に道の駅良寛の里わしま、また10月1日に与板スポーツ広場において、支所地域巡回ポニーカーニバルを行う。9月8日から10月2日まで、各小学校や施設のグラウンド等をまわり、グラウンドポニースクールを行う。小学生など約1,600名が対象であり、ふれあい体験の場を提供する。

(高橋教育長) その他に報告事項はあるか。

(竹内学校教育課長) 7月27日に、福島県から来ている教職員と長岡市の担当部局で懇談会を行い、まとめたものを作成した。夏休み明けに、福島から来ている生徒に対して活用してもらい、保護者に情報提供する際の参考にしてもらいたいと思う。

(高橋教育長) その他に報告事項はあるか。

(高橋教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員